

不安の国、日本 希望の国、日本

未来を想うこと。未来を描くこと。

それは、少なくとも私の幼少時には「夢」と「希望」にあふれていた。

今からおよそ半世紀前、昭和31年（1956）の経済白書に明記された、

「もはや『戦後』ではない」の一文。

東京タワー、新幹線、アポロ11号の月面着陸、大阪万博。

次々にフロンティアが拓け、その度に国中が沸き、さらにその先を期待した。

それらの開拓は、科学技術と経済産業の力強い両輪駆動により、

前へ、大きく、広く、歩みを進めた。

生活のスタイルとは言えば、大都市周辺に暮らすサラリーマン核家族が思い浮かぶ。

植木等のスーダラ節が流行し、サラリーマンは気楽な稼業の代名詞。

たとえ失敗しても、「ハイそれまでヨ」のニッポン無責任時代。

成長の時代の勢いは、それほどまでに将来への憂いを消し流していた。

そして、かつての成長の勢いが収まった今日。

新たな感染症、地球環境問題、遺伝子組み替え、高度化するネット犯罪など、

まぶしい科学技術の陰に潜んでいた「不安」が、社会や生活の表に現れ出している。

「安心」や「安全」への期待は強まるばかりだ。

人びとは、不安な未来を想うより、今を生き抜き、

後方に脱落してしまわないように走り続ける。

終身雇用や年功序列から、リストラと成果主義へ。

もはや、サラリーマンは気楽な稼業と言い切れなくなった。

過酷な競争環境だけでなく、CSR、コンプライアンス、リスク管理。

小さな傷口もすぐに致命傷へと広がり「ハイそれまでヨ」。

個人も企業も、強く正しくニッポン総自己責任時代の到来か。

一方では、不安、欺瞞、格差に満ちた社会を嫌って、閉じこもり始めた若者たちの存在。

利己主義や孤立につながる個人主義の行方、世代間摩擦の顕在化も気がかりだ。

そんな今年の国民生活白書のタイトルは『つながりが築く、豊かな国民生活』。

今回のHR Iの調査結果には、不安の未来、不満の現状が表れた。

今や、未来を想い、未来を描こうとする時、そこには不安しかないのだろうか？

NO！悲観するばかりの結果ではない。不安の向こう側には未来への希望が見通せる。

不安、不満、不確実——変わり目の時代の「不」は、未来への希望の手がかりだ。

つながり合える安心、立ち上がれる安心——

一人ひとりの自律は、自らの生きる場を信頼できてこそ実現する。

自律社会の科学技術も、自ずとその先に見えてくる。

まずは、みなさんにとっての未来への海図を、

私たちの調査データの海から読み取っていただければと心から願うばかりだ。

羅針盤は、希望の未来を指し示す。

10年後の未来へ、Bon Voyage!



2 調査概要・基本属性

4 今の生活について感じること

- 4・現在の生き方を採点すると
- 5・結婚
- 6・子ども
- 7・ワークライフバランス
- 9・仕事の継続希望

10 10年後の生活をイメージする

- 10・不安
- 12・やりたいこと
- 14・希望する働き方
- 15・希望する居住地

16 10年後の社会をイメージする

- 16・10年後の社会の全体像
- 17・社会の豊かさ・格差
- 21・少子化・高齢化
- 23・仕事と働き方
- 26・教育・学校
- 29・安心・安全
- 30・環境・資源
- 33・グローバル化

34 10年後の科学技術をイメージする

- 34・技術への期待
- 35・IT 機器・サービスの利用
- 37・IT への期待

38 レポート I 不安と向き合う人びと

—アンケート調査結果にみる5つの生き方—
鷺尾 梓 (HR I 研究部 研究員)

44 レポート II 生活者の言葉から探る、「豊かさ」の姿

澤田 美奈子 (HR I 研究部 研究員)

性別・年齢

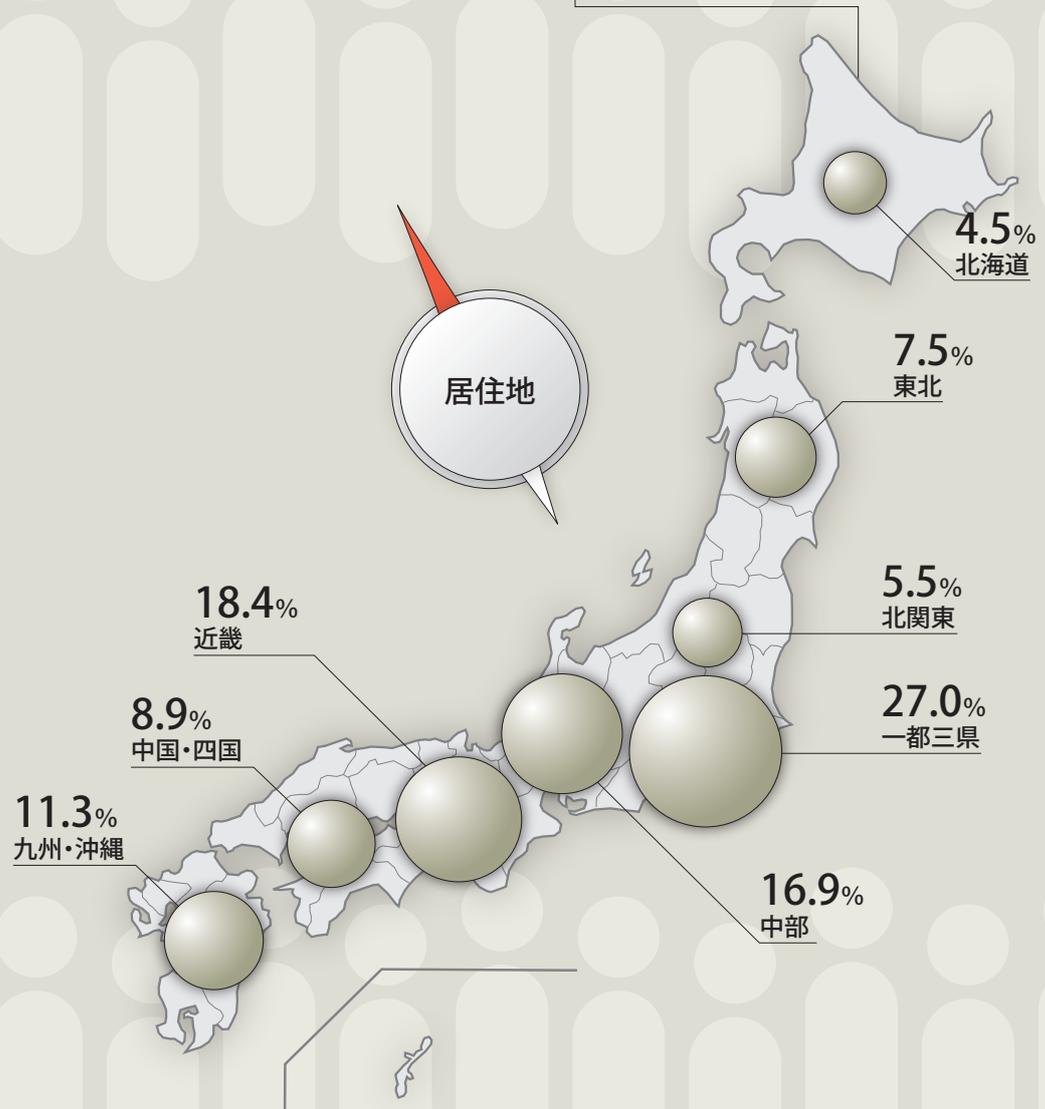


	男性	女性	合計
20～24歳	200	200	400
25～29歳	200	200	400
30～34歳	200	200	400
35～39歳	200	200	400
40～44歳	200	200	400
45～49歳	200	200	400
50～54歳	200	200	400
55～59歳	200	200	400
60～64歳	200	200	400
	1800	1800	3600

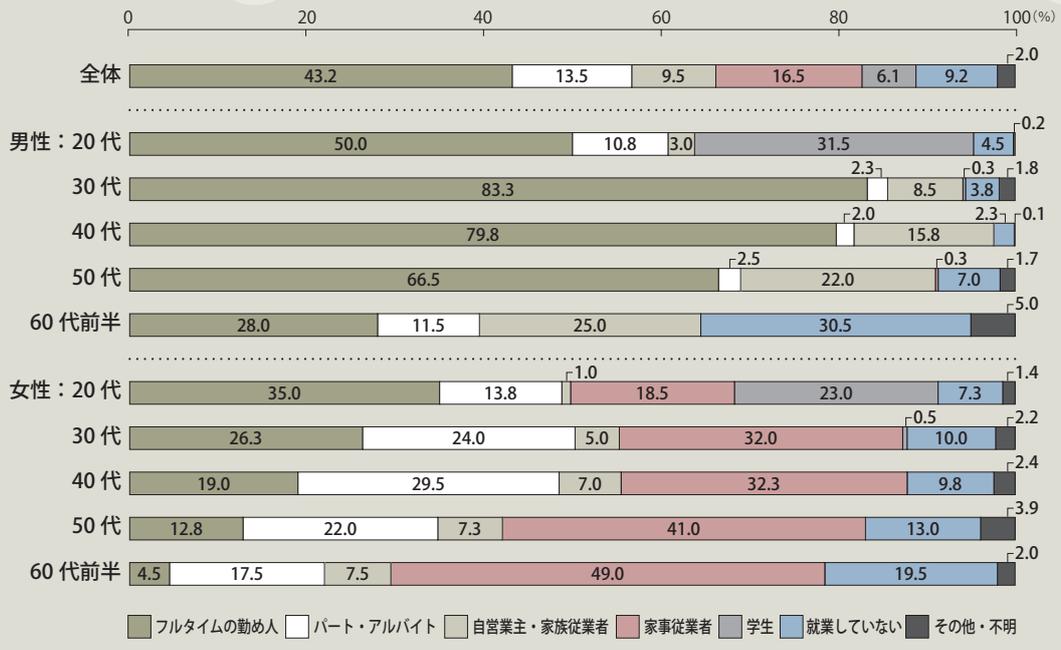
調査方法:WEBアンケート
 調査期間:2007年2月8日～2月19日
 調査対象:全国の20～64歳の男女
 サンプル数:3600サンプル

調査概要

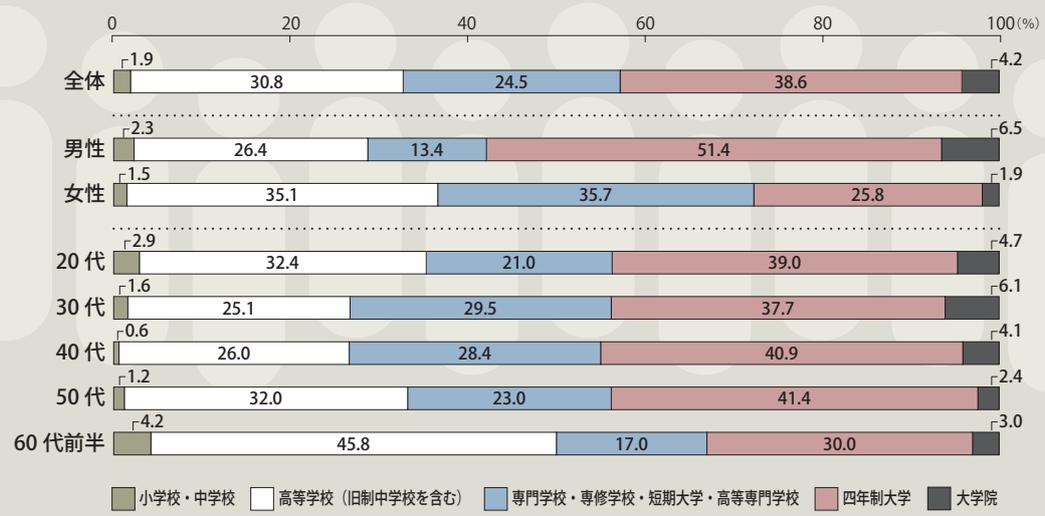
基本属性



就業状態



最終学歴



世帯収入

